≪論　　文≫

地域住民の学習活動と学習ニーズに関する調査研究

渡辺博史・天野栄一・金子養正

I　調査事業計画の展開

1．調査の目的

新しい地域づくりと住民の学習活動の進め方については，近年とくに生涯学習活動の推進とともに，多方面の角度から社会教育活動の見直しがおこなわれている。

とくに人生80年時代を迎えた高齢化社会における人びとの生きがい学習は，明るい家庭づくりと人間関係をはじめとし，豊かな学校づくり，職場づくり，団体・サークル活動やリーダー養成などについて青少年から婦人，成人男子，高齢者層にいたるまでの学習プログラムを体系的に編成し，有効な生きがい学習計画として構築されていかなければならない。

本調査研究は[1]，北関東に位置する地方都市近郊農村地域（群馬県佐波郡境町）の住民に対する実態調査をもとに，住民はこれまでどのような学習活動を実施してきたか，その学習活動内容や方法はどうか，その活動に参加してどんな成果を得たか，またそれらの学習活動の阻害要因は何か，そして住民は今後どのような学習活動を期待しているのか等について現状と今後の改善方向を明らかにしていくことをねらいとしている。

1）　本調査は，群馬県境町教育委員会から，流通経済大学社会学部教授渡辺博史が依頼を受け，地域生涯学習調査研究会が実施した．なお，この研究会の構成メンバーは以下の通りである．

代表　流通経済大学社会学部教授　渡辺博史（調査受託者）
流通経済大学経済学部助教授　金子養正
流通経済大学インストラクター　天野栄一*
流通経済大学インストラクター　坂部創一
水戸短期大学専任講師　松田哲

*印は幹事

2．調査対象地の概況

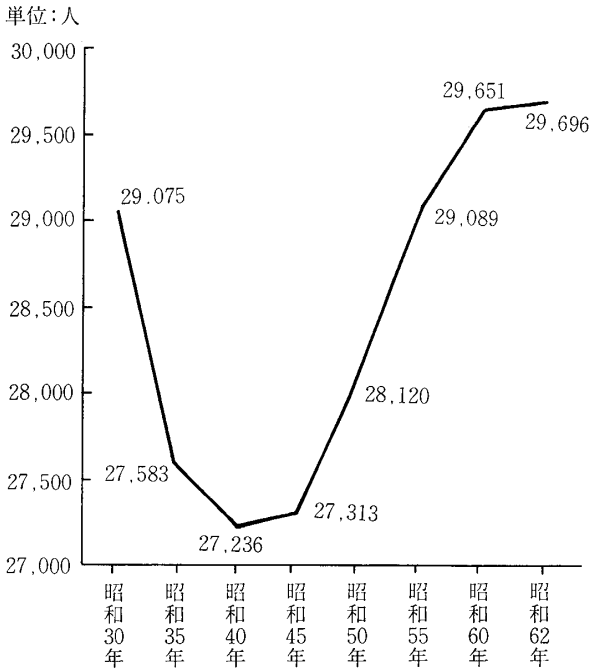
境町は群馬県の東南部に位置し，東西5.5km，南北8.4km，面積31.67km²である。町の南部は利根川が接岸している。東京より100km圏内にあり，東に新田町，尾島町，北に佐波郡東村，西に伊勢崎市，南に埼玉県深谷市，本庄市が隣接している。町のほぼ中央を東西に東武伊勢崎線が通っており，２つの駅がある。また道路は，町の東西を国道354号線が通っている。

境町の沿革は，昭和30年に町村合併促進法により，境町，采女村，剛志村および島村が合併，さらに昭和32年に世良田村の一部を編入し，現在の境町になっている。

人口は昭和63年３月末日現在で29,696人で[2]，昭和58年３月に比し，1.4％の漸増となっている（図１）。年齢別人口構成では，20代が若干少なく，65歳以上の高齢者は13.4％となっており，全国平均より高い。15歳以上の昼間人口の流出・流入の状況は表１のとおりである。伊勢崎市を中心に他の周辺地域への流出人口は6,000人以上にのぼるが，他からの流入人口も工業団地などへ3,500人ほど流入しており，出入移動が激しい地域である。

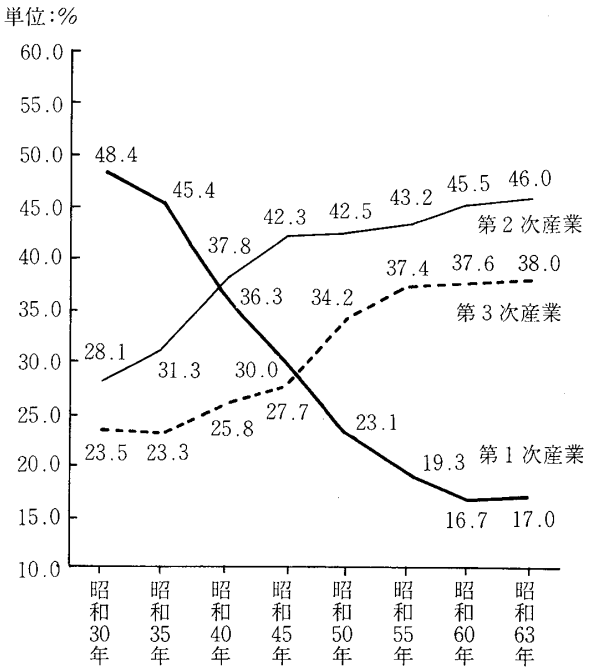
産業別就業人口構成の変化は図２に示したが，昭和60年の国勢調査では，第１次産業16.7％，第２次産業45.5％，第３次産業37.6％となっており，第２次産業の割合が多くなっている。第１次産業人口は，全国的な動向と同様に1960年以降の高度経済成長期を境に急激な減少を見せている。とくにこの地域は近世期以降養蚕業の産地として活況を呈した地域であるが，その衰

2）　境町の平成２年３月末日現在の人口は，男14,801人，女15,046人，合計29,847人である．



出所　国勢調査による．

図1　人口の推移



出所　国勢調査による．

図2　産業別人口構成

表1　常住・昼間人口の推移

年次	常住人口	昼間人口	昼間流出人口			昼間流入人口		
			通勤	通学	小計	通勤	通学	小計
1970年	27,313	23,271	4,218	1,190	5,408	922	444	1,366
1975年	28,120	24,175	4,426	1,140	5,566	1,214	407	1,621
1980年	29,089	25,127	5,327	1,147	6,474	2,158	354	2,512
1985年	29,651	25,895	6,267	1,319	7,586	3,454	376	3,830

出所　「境町の動向」による．

退とともに農業人口も急激に低下した。近隣に伊勢崎市や高崎市などの労働市場があり，交通条件の発展により兼業化が進展したためである。しかし，昭和55年以降専業農家，第1種兼業農家の割合が漸増している。これは第2種兼業農家の減少（離農あるいは高齢専業農家への転化など）によるもので実数的にはあまり変化していない。

なお，社会教育の施設整備状況としては，公民館が5館，図書館が1館，社会体育施設として体育館が1館，運動公園3ヶ所が設けられている。昭和62年度における町全体および本調査の調査対象地である采女公民館の主な年間事業項目は表2のとおりである。

3．調査の対象と方法

調査対象者の抽出は，性，年齢，結婚の有無，職業別などの属性を考慮し，境町采女地区全域から有意選出法で1,400人を抽出し，配票法で実施した。

4．調査の時期

1988年12月26日～1989年1月17日

5．調査票の回収状況

配票数1,400票　回収数1,263票　回収率90.2%

表2 社会教育関係年間事業項目(昭和62年度)

町全体	市民大学，婦人講座，成人の日の会，青年キャンプ，高校生キャンプ，ジュニアリーダー研修，教養講座，各種展示会，視聴覚教育初級研修会，市民美術展，高校生ソフト大会，子ども会球技大会，青少年団体指導者研修会，青年スキー大会
采女公民館	生活学校，成人学級，婦人学級，家庭教育学級，巡回映画会，卓球大会，バレーボール大会，ソフトボール大会，子ども会球技大会，公民館まつり，町民レクリエーション大会，駅伝大会，高齢者教室，上毛カルタ大会，バザー，青少年健全育成習字大会，ゲートボール大会，グランドゴルフ講習会，手芸教室，書道教室，俳句教室，スキー教室，子ども会縄とび大会，親子映画会，チュックボール大会

表3 回収票の内訳

単位% ( )内は実数

		男	女	NA	計
年齢階層	中学生	16.1(89)	15.5(94)	0.0(0)	14.5(183)
	高校生	11.8(65)	12.5(76)	4.8(5)	11.6(146)
	20歳代	15.4(85)	16.7(101)	0.0(0)	14.7(186)
	30歳代	15.6(86)	14.5(88)	4.8(5)	14.2(179)
	40歳代	14.5(80)	17.8(108)	1.9(2)	15.0(190)
	50歳代	13.4(74)	12.5(76)	9.6(10)	12.7(160)
	60歳以上	11.9(66)	9.4(57)	16.3(17)	11.1(140)
	NA	1.4(8)	1.0(6)	62.5(65)	6.3(79)
結婚	未婚	44.7(247)	38.4(233)	6.7(7)	38.6(487)
	既婚	47.7(264)	53.3(323)	15.4(16)	47.7(603)
	NA	7.6(42)	8.3(50)	77.9(81)	13.7(173)
職業	農業者	9.0(50)	9.9(60)	9.6(10)	9.5(120)
	会社員	39.6(219)	18.8(114)	7.7(8)	27.0(341)
	経営者	10.5(58)	3.1(19)	3.8(4)	6.4(81)
	公務員	5.4(30)	4.1(25)	0.0(0)	4.4(55)
	専業主婦	0.0(0)	19.0(115)	6.7(7)	9.7(122)
	兼業主婦	0.0(0)	12.0(73)	4.8(5)	6.2(78)
	学生	27.3(151)	28.5(173)	4.8(5)	26.0(329)
	その他	6.0(33)	4.0(24)	1.0(1)	4.6(58)
	NA	2.2(12)	0.5(3)	61.5(64)	6.3(79)
計		100.0(553)	100.0(606)	100.0(104)	100.0(1,263)

6．回収票の内訳（表3）

(1) 性別

男性43.8%，女性48.0%でやや女性が多い。

(2) 年齢別

中学生14.5%，高校生11.6%，20歳代14.7%，30歳代14.2%，40歳代15.0%，50歳代12.7%，60歳以上11.1%で，各年齢階層に平均して分散している。

(3) 結婚の有無

未婚38.6%，既婚47.7%で，既婚者が多い。

(4) 職業別

会社員27.0%，学生26.0%，専業主婦9.7%，農業者9.5%，経営者6.4%，兼業主婦6.2%，公務員4.4%，その他4.6%で，会社員と学生が多い。

(渡辺博史)

Ⅱ 地域住民の学習活動の実態と動向

1．現在までの学習活動の経過

地域住民の学習活動の実態を把握するために，とくに過去1年間における公民館や団体サークル活動及び個人学習の機会をふくめて学習活動へどうかかわってきたかについて参加動向を点検した（表4）。そこで明らかになったのは学習活動への参加経験がかつてあったものは全体の53.4%もいたことである。しかもここでは中

表4 学習活動への参加状況

		したことがある	したことがない	NA	計
全体		53.4	44.7	1.8	(1,263)
性別	男	57.7	41.8	0.5	(553)
	女	51.7	46.7	1.7	(606)
	NA	41.3	49.0	9.6	(104)
年齢別	中学生	79.2	19.1	1.6	(183)
	高校生	72.6	27.4	0.0	(146)
	20歳代	47.8	51.1	1.1	(186)
	30歳代	43.6	55.3	1.1	(179)
	40歳代	51.1	48.4	0.5	(190)
	50歳代	40.6	56.9	2.5	(160)
	60歳以上	44.3	51.4	4.3	(140)
	NA	41.8	51.9	6.3	(79)
職業別	農業者	50.8	45.0	4.2	(120)
	会社員	42.5	56.6	0.9	(341)
	経営者	40.7	56.8	2.5	(81)
	公務員	83.6	16.4	0.0	(55)
	専業主婦	41.5	56.9	1.6	(123)
	兼業主婦	35.9	61.5	2.6	(78)
	学生	76.6	22.5	0.9	(329)
	その他	41.4	56.9	1.7	(58)
	NA	44.9	48.7	6.4	(78)

学生，高校生，公務員の参加経験者が7割を超え，ほかの職業ではとくに農業者が，世代的には40代層がともに半数を超えるだけで，そのほかは半数をはるかに割っている。そしてとくに注目されたのはパート主婦の場合35.9％漸増化の傾向を高めていることである。

2．学習活動の内容

学習活動でとくに注目されるのは（表5），①「スポーツ」(63.9％)，「芸術・趣味・けいこごと」(55.9％) に関するものが圧倒的に多く，次いで②「職業上の知識」(35.7％) に関するもの，③「家庭・日常生活」，「教養」，「育児・子供の教育」，「ボランティア活動」，「地域問題」となっている。とくに「スポーツ」に関するものとしては，性別では男性，年代別では年齢が低い階層ほど多い。また「芸術・趣味・けいこごと」に関するものとしては，性別では女性，年代別では年齢が高い階層ほど多くなっている。

なお，過去1年間に行った活動を，単発的でなく，継続的に行っているかどうかについては，過去1年間の活動傾向とほぼ同様の傾向を示していることが明らかになった。

このように地域住民学習としては，どちらかというと内容的にソフトな学習部門（趣味・スポーツなど）への参加が多く，地域住民が日常生活のなかで求めている生活要求や地域課題について，また高齢化時代に対応する人生の生活設計や生きがい学習など，いわばハードな学習部門への参加が稀薄になっていることが特徴である。家庭生活・地域生活と密接に結びついている女性，農業者，主婦層は比較的ハードな学習部門に関心を抱いているが，男性の30代層以下では学習への関心も機会も低いことが不活発な特徴として注目される。また見落とせないのは，ボランティア活動，地域問題などが，中学・高校生に低く，とくに高校生の場合，ボランティア活動（5.7％）や地域問題（1.9％）への関心はきわめて薄い。

以上のように，地域と密接に結びついた学習課題に関心が薄いということは，地域への愛着心が育たず，地域の活性化にも結びつき難い。

表5 学習活動の内容(複数回答)

単位% ( )内は人数

		スポーツ	ごと芸術・趣味・けいこ	職業上の知識	家庭・日常生活	教養(文学・歴史)	国内・海外旅行	育児・子どもの教育	ボランティア活動	地域問題	その他	NA	計
全体		63.9	55.9	35.7	31.9	24.9	12.0	11.3	10.7	9.2	3.7	0.7	(675)
性別	男	74.3	52.4	48.0	19.1	24.1	10.7	8.5	6.0	10.7	2.8	0.9	(319)
	女	53.7	59.4	24.3	43.1	25.2	12.8	14.7	14.7	8.0	4.8	0.6	(313)
	NA	60.5	55.8	27.9	44.2	27.9	16.3	7.0	16.3	7.0	2.3	0.0	(43)
年齢別	中学生	87.6	60.7	8.3	26.2	29.7	4.1	2.8	11.0	6.2	6.2	2.1	(145)
	高校生	71.7	67.0	34.0	25.5	36.8	9.4	1.9	5.7	1.9	5.7	0.9	(106)
	20歳代	66.3	56.2	53.9	18.0	15.7	25.8	10.1	3.4	3.4	2.2	0.0	(89)
	30歳代	71.8	41.0	52.6	26.9	12.8	9.0	37.2	5.1	9.0	1.3	0.0	(78)
	40歳代	54.6	47.4	44.3	42.3	23.7	9.3	21.6	11.3	14.4	3.1	0.0	(97)
	50歳代	41.5	60.0	44.6	43.1	16.9	12.3	6.2	16.9	16.9	1.5	0.0	(65)
	60歳以上	22.6	53.2	37.1	53.2	27.4	24.2	8.1	29.0	24.2	0.0	0.0	(62)
	NA	57.6	54.5	27.3	33.3	33.3	9.1	6.1	9.1	3.0	9.1	3.0	(33)
職業別	農業者	44.3	41.0	49.2	47.5	18.0	16.4	14.8	21.3	23.0	1.6	0.0	(61)
	会社員	66.9	51.7	58.6	21.4	13.8	16.6	10.3	4.1	8.3	2.1	0.0	(145)
	経営者	69.7	48.5	57.6	24.2	12.1	24.2	12.1	15.2	15.2	0.0	0.0	(33)
	公務員	52.2	45.7	67.4	30.4	37.0	15.2	17.4	6.5	8.7	0.0	0.0	(46)
	専業主婦	29.4	64.7	9.8	62.7	19.6	9.8	37.3	19.6	9.8	2.0	0.0	(51)
	兼業主婦	39.3	39.3	14.3	67.9	21.4	7.1	28.6	21.4	25.0	0.0	0.0	(28)
	学生	78.2	63.9	20.6	23.8	33.7	7.1	2.4	9.1	4.0	6.3	1.6	(252)
	その他	50.0	58.3	33.3	41.7	20.8	12.5	16.7	12.5	16.7	12.5	0.0	(24)
	NA	71.4	60.0	20.0	34.3	28.6	11.4	8.6	8.6	2.9	2.9	2.9	(35)

行政社会教育事業がいつも「人集め」を気にするあまり，たえず趣味・スポーツなどソフトなものだけを事業化してとりあげたがる傾向が強いが，もっと現実の地域社会で生起している住民の切実な生活課題や地域の解決課題について，住民の学習関心を触発し，学習活動の質を積極的に高めていくプログラムへの転換が期待されている段階にきているのではなかろうか。

3．学習活動の方法

さて以上の学習活動をどのような方法で行ってきたかについては（表6），「同好の人のサークルやグループ活動などで」(24.9%)，「役所・公民館などの講座・行事などで」(13.7%)，「本やテレビ・ラジオなどの利用で一人で」(11.7%）がベスト3となっている。以下「高校・大学などの公開講座で」，「個人的に先生について」，「職場・農協・商工会などの研修で」と続いている。もちろんこの学習活動の方法は，内容によって異なっており，たとえば「スポーツ」に関するものは「同好の人のサークルやグループ活動」に対応し，「芸術・趣味・けいこごと」は「テレビ・ラジオなど」で「個人的に先生について」に対応し，「職業上の知識」に関しては「職場・農協・商工会などの研修で」にそれぞれ対応していることがうかがわれる。

この活動方法を属性別にみると，性別では男性が「同好の人のサークルやグループ活動などで」が多く，女性は「役所・公民館などの講座や行事などで」が多くなっている。年齢別の特徴では「役所・公民館などの講座や行事などで」が年齢が高くなるにしたがって多くなっている。職業的にみると農業者・専業主婦は「役所・公民館」が多く，経営者は「同好の人のサークル

表6　学習活動の方法

単位%　（　）内は実数

		同好の人のサークルやグループ活動など	講座・行事などで役所・公民館などの	本やテレビ・ラジオなどの利用で一人で	開講講座で高校・大学などの公	個人的に先生について	職場・農協・商工会などの研修で	婦人会・老人会・PTAなど団体活動で	訓練所・研修学校・各種学校に入って	民間で行う講座・講演会・行事などで	通信教育で	その他	NA	計
全体		24.9	13.7	11.7	7.0	6.7	6.5	4.0	3.7	3.0	1.6	13.3	4.0	(571)
性別	男	29.6	11.5	14.4	5.9	1.9	9.3	2.6	3.0	4.4	2.2	12.2	3.0	(270)
	女	20.9	15.8	8.8	8.4	11.7	3.7	4.8	4.8	1.8	1.1	14.3	4.0	(273)
	NA	17.9	14.3	14.3	3.6	3.6	7.1	10.7	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	(28)
年齢別	中学生	10.9	11.7	15.6	0.0	7.0	0.8	3.1	7.0	1.6	1.6	29.7	10.9	(128)
	高校生	19.0	7.0	10.0	35.0	6.0	1.0	0.0	5.0	3.0	0.0	11.0	3.0	(100)
	20歳代	32.1	5.1	7.7	3.8	7.7	11.5	3.8	7.7	2.6	5.1	11.5	1.3	(78)
	30歳代	32.4	17.6	11.8	1.5	13.2	10.3	4.4	0.0	1.5	2.9	4.4	0.0	(68)
	40歳代	28.4	18.9	10.8	0.0	5.4	12.2	5.4	1.4	5.4	0.0	9.5	2.7	(74)
	50歳代	32.7	25.5	7.3	0.0	1.8	10.9	10.9	0.0	5.5	0.0	3.6	1.8	(55)
	60歳以上	40.0	20.0	13.3	0.0	6.7	6.7	4.4	0.0	2.2	2.2	4.4	0.0	(45)
	NA	21.7	13.0	21.7	4.3	0.0	4.3	4.3	0.0	4.3	0.0	17.4	8.7	(23)
職業別	農業者	32.6	23.3	7.0	0.0	0.0	16.3	11.6	0.0	0.0	2.3	7.0	0.0	(43)
	会社員	29.2	13.3	12.5	0.8	4.2	18.3	3.3	0.8	5.0	3.3	6.7	2.5	(120)
	経営者	35.7	14.3	10.7	3.6	3.6	14.3	3.6	7.1	3.6	0.0	3.6	0.0	(28)
	公務員	33.3	14.3	9.5	7.1	11.9	4.8	2.4	2.4	2.4	2.4	7.1	2.4	(42)
	専業主婦	28.9	23.7	7.9	0.0	21.1	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	7.9	0.0	(38)
	兼業主婦	30.8	19.2	11.5	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0	3.8	0.0	7.7	3.8	(26)
	学生	15.4	9.6	13.2	14.9	6.6	0.9	1.8	6.6	2.2	1.3	20.6	7.0	(228)
	その他	36.4	13.6	13.6	0.0	9.1	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	22.7	0.0	(22)
	NA	29.2	12.5	12.5	4.2	0.0	0.0	8.3	4.2	4.2	0.0	16.7	8.3	(24)

やグループ活動」が多くなっている。

4．学習活動の契機

学習活動をはじめたきっかけは（表7），「前からやりたい気持ちを持っていたから」が55.0%と多く，次いで「仕事や生活のために必要だから」(36.1%)，「時間のゆとりができたから」(29.8%)，「知人や家族からすすめられたから」(22.8%)，「場所が便利だから」(20.0%)，「仲間がほしかったから」(18.6%) となっている。

「市町村の知らせや新聞などで知った」は6.5%にすぎず，社会教育行政からのアプローチが住民に浸透していないことがわかる。また，学習活動への参加のきっかけについて専業主婦についてみると，「前からやりたい気持ちを持っていたから」が7割を超え，「時間のゆとりができたから」が半数を超している。専業主婦の学習活動への参加パターンは，活動をやりたい気持ちを持っていて，子育てが一段落して時間のゆとりができたところに，広報や知人からの情報，家庭からの進めなどをきっかけに参加したというケースが多い。また，注目しなければならないのは主婦（とくにパート主婦），経営者，高校生の場合，「仲間がほしかったから」というのをきっかけとしてあげている者が非常に多いことである。いずれも時間的な余裕がなく，人間関係が稀薄な状態にあることがうかがわれる。

5．学習活動の効果

学習活動をしていて，ためになったことは（表8）「必要な知識・技術を高められた」(61.3%)，「新しい仲間ができて，人間関係が広まった」

表7　学習活動の契機　　単位%　（　）内は実数

		前からやりたい気持ちを持っていたから	仕事や生活のために必要だったから	時間のゆとりができたから	知人や家族にすすめられたから	学習や活動をする場所が便利だから	仲間がほしかったから	ただなんとなく	お金があまりかからなかったから	市町のお知らせや新聞などで知った	その他	NA	計
全体		55.0	36.1	29.8	22.8	20.0	18.6	17.7	12.6	6.5	13.8	2.3	(571)
性別	男	48.5	35.9	26.3	20.0	20.7	16.3	19.6	14.8	4.8	14.4	1.9	(270)
	女	63.4	37.0	32.6	25.3	19.8	22.0	16.1	9.5	8.1	13.6	1.8	(273)
	NA	35.7	28.6	35.7	25.0	14.3	7.1	14.3	21.4	7.1	10.7	10.7	(28)
年齢別	中学生	53.9	25.8	24.2	21.9	18.0	10.2	29.7	7.8	7.0	21.1	2.3	(128)
	高校生	64.0	32.0	26.0	17.0	20.0	25.0	25.0	8.0	2.0	15.0	3.0	(100)
	20歳代	53.8	46.2	23.0	29.5	24.4	12.8	14.1	15.4	6.4	10.3	1.3	(78)
	30歳代	52.9	36.8	29.4	27.9	14.7	20.6	14.7	11.8	7.4	10.3	0.0	(68)
	40歳代	54.1	40.5	39.2	29.7	17.6	27.0	4.1	21.6	4.1	12.2	4.1	(74)
	50歳代	47.3	40.0	34.5	18.2	25.5	23.6	10.9	20.0	12.7	9.1	1.8	(65)
	60歳以上	64.4	46.7	46.7	11.1	26.7	22.2	6.7	13.3	11.1	8.9	0.0	(45)
	NA	34.8	30.4	26.1	26.1	13.0	4.3	21.7	4.3	4.3	17.4	8.7	(23)
職業別	農業者	46.5	53.5	39.5	23.3	18.6	23.3	9.3	20.9	16.3	4.7	0.0	(43)
	会社員	45.8	49.2	25.0	22.5	14.2	17.5	12.5	16.7	5.0	13.3	0.8	(120)
	経営者	46.4	35.7	32.1	21.4	21.4	32.1	25.0	14.3	7.1	7.1	0.0	(28)
	公務員	69.0	40.5	23.8	16.7	35.7	14.3	9.5	21.4	9.5	11.9	2.4	(42)
	専業主婦	71.1	28.9	52.6	34.2	21.1	23.7	5.3	13.2	7.9	13.2	2.6	(38)
	兼業主婦	57.7	23.1	38.5	26.9	23.1	38.5	3.8	15.4	15.4	3.8	7.7	(26)
	学生	57.9	29.8	24.6	19.7	19.7	17.5	26.8	7.9	4.4	17.5	2.6	(228)
	その他	50.0	27.3	50.0	36.4	27.3	4.5	13.6	9.1	0.0	18.2	0.0	(22)
	NA	50.0	25.0	29.2	29.2	12.5	0.0	16.7	4.2	4.2	16.7	8.3	(24)

(57.8%)「学習や活動の楽しみがわかった」(45.4%),「働くほかに生きがいがもてた」(31.5%),「生活をよくするために役立った」(26.3%),「地域の活動に参加できるようになった」(14.9%),「必要な資格が得られた」(12.4%) の順になっている。学習活動のきっかけを聞いたところでは,「仕事や生活のために必要だから」という回答が多かったが,これは「必要な知識・技術を高められた」や「必要な資格が得られた」につながり,同じく活動のきっかけで「仲間がほしかったから」は18.6%であったが,活動の効果では57.8%の者が回答し,学習活動効果が非常に高かったことを示している。

性別では,男性が「必要な知識・技術を高められた」や「必要な資格が得られた」など職業に結びついた実利的効果をあげたものが多いのに対し,女性は「新しい仲間ができて,人間関係が広まった」や「学習や活動の楽しみがわかった」などソフト面の効果をあげている者が多い。また世代的には年齢階層が高くなるにつれて,知識,技能,資格などハード面の効果より,仲間づくりや生きがいといったソフト面の効果をあげる者が多くなっている。さらに職業別では,地域に生活・生産の基盤を置いている農業者,経営者,主婦が,地域活動や生活改善志向への効果が高まったことをあげている。一方,会社員,公務員は「必要な知識・技能を高められた」や「必要な資格が得られた」といった実利的効果をあげたものが多い。

6．学習活動に参加しなかった理由

次に過去1年間,学習活動に参加したことのない者の不参加理由をみると（表9),「必要性

表8 学習活動の効果(複数回答)

単位% ( )内は実数

		高められた必要な知識・技術を	人間関係が広まった新しい仲間ができ	がわかった学習や活動の楽しみ	がもてた働くほかに生きがい	に役立った生活をよくするため	きるようになった地域の活動に参加で	た必要な資格が得られ	その他	NA	計
全体		61.3	57.8	45.4	31.5	26.3	14.9	12.4	5.4	1.6	(571)
性別	男	64.1	51.5	41.1	32.6	25.9	16.3	14.8	3.7	1.5	(270)
	女	60.8	63.4	50.5	30.0	26.4	13.2	10.3	7.7	1.1	(273)
	NA	39.3	64.3	35.7	35.7	28.6	17.9	10.7	0.0	10.7	(28)
年齢別	中学生	71.9	46.1	68.8	9.4	32.8	12.5	5.5	7.8	2.3	(128)
	高校生	78.0	71.0	51.0	10.0	25.0	4.0	16.0	9.0	0.0	(100)
	20歳代	59.0	57.7	41.0	33.3	25.6	12.8	19.2	2.6	2.6	(78)
	30歳代	45.6	52.9	36.8	47.1	22.1	30.9	17.6	7.4	0.0	(68)
	40歳代	55.4	63.5	32.4	48.6	21.6	14.9	14.9	5.4	2.7	(74)
	50歳代	50.9	63.6	27.3	58.2	27.3	21.8	5.5	0.0	1.8	(55)
	60歳以上	53.3	55.6	35.6	60.0	24.4	15.6	11.1	0.0	0.0	(45)
	NA	43.5	52.2	34.8	21.7	26.1	17.4	8.7	4.3	8.7	(23)
職業別	農業者	55.8	62.8	25.6	51.2	37.2	20.9	7.0	0.0	0.0	(43)
	会社員	60.0	54.2	29.2	40.0	25.0	15.0	19.2	3.3	1.7	(120)
	経営者	53.6	71.4	25.0	53.6	21.4	21.4	10.7	0.0	0.0	(28)
	公務員	64.3	50.0	40.5	54.8	21.4	9.5	16.7	2.4	2.4	(42)
	専業主婦	42.1	76.3	57.9	44.7	15.8	23.7	10.5	10.5	0.0	(38)
	兼業主婦	26.9	69.2	42.3	69.2	23.1	34.6	3.8	3.8	3.8	(26)
	学生	74.1	54.8	59.6	9.2	28.5	9.2	10.5	8.8	1.8	(228)
	その他	36.4	50.0	45.5	54.5	27.3	18.2	13.6	4.5	0.0	(22)
	NA	50.0	58.3	41.7	16.7	25.0	20.8	12.5	0.0	8.3	(24)

を感じていない」という回答は9.2%にすぎず，「特に理由はない」(45.1%) が最も多くなっている。ここで注目したいのは「学習活動をしたいと思いながら実行できなかった」という不参加理由をあげる者が30.3%いることである。とくに30代，40代，50代の女性に多くなっている。これは，意欲はもっているが，何らかの障害のため学習活動に参加できないでいることを示唆している。

a. 自己の生活をとりかこむ阻害要因

ここでは，前述の不参加理由で「特に理由はない」，「学習活動をしたいと思いながら実行できなかった」と回答した者の阻害要因を明らかにしたい (表10)。それによると，「忙しくて時間がない」(45.3%) が圧倒的に多く，次いで「参加した経験がないので，参加することが不安だ」(15.0%)，「同好の仲間がいない」(10.1%) となっており，以下「幼児や年寄りの世話をしてくれる人がいない」，「家族や自分の健康上の問題から参加できない」，「家族や職場の人などの理解や協力が得られない」，「みんなと一緒に学習活動ができるかが心配だ」，「前に参加したとき，いやな経験や役に立たなかった思い出がある」と続き，いずれも5%以下となっている。

属性による特徴は，職業別で顕著に現れ，就業者は「忙しくて時間がない」が多く，中学・高校生は「参加した経験がないので，参加することが不安だ」が，さらに専業主婦は「幼児や年寄りの世話をしてくれる人がいない」や「家族や自分の健康上の問題から参加できない」が多く，パート主婦は「家族や職場の人などの理解や協力が得られない」という阻害要因が相対的に多くなっている。また，高校生，パート主婦は「同好の仲間がいない」が多くなっており，

表9　学習活動をしたことのない理由

単位%　(　)内は実数

		やりたいと思いながら実行できなかった	とくに理由はない	特に学習や活動の必要性を感じていない	NA	計
全体		30.3	45.1	9.2	15.4	(565)
性別	男	23.8	51.1	13.4	11.7	(231)
	女	37.8	43.8	6.7	11.7	(283)
	NA	17.6	25.5	3.9	52.9	(51)
年齢別	中学生	8.6	77.1	5.7	8.6	(35)
	高校生	12.5	67.5	20.0	0.0	(40)
	20歳代	26.3	55.8	9.5	8.4	(95)
	30歳代	44.4	40.4	10.1	5.1	(99)
	40歳代	38.0	40.2	9.8	12.0	(92)
	50歳代	37.4	30.8	8.8	23.1	(91)
	60歳以上	20.8	45.8	6.9	26.4	(72)
	NA	24.4	24.4	2.4	48.8	(41)
職業別	農業者	46.3	31.5	9.3	13.0	(54)
	会社員	33.2	43.5	8.8	14.5	(193)
	経営者	26.1	41.3	21.7	10.9	(46)
	公務員	44.4	22.2	22.2	11.1	(9)
	専業主婦	34.3	47.1	5.1	12.9	(70)
	兼業主婦	41.7	39.6	2.1	16.7	(48)
	学生	12.2	73.0	10.8	4.1	(74)
	その他	18.2	54.5	6.1	21.2	(33)
	NA	18.4	23.7	7.9	50.0	(38)

前述した活動の契機で「仲間がほしかったから」という回答に対応している。

b．学習活動過程における阻害要因

この阻害要因としては（表11），まず「どこでどんな行事や講座をしているのかわからない」(36.9%）が最も多く，次いで「自分の希望に合う講座や行事がない」(19.0%)，「講座や行事などの日時が適当でない」(18.1%）とつづき，「適当な指導者がいない」，「お金がかかりすぎる」，「交通に時間がかかりすぎる」を障害としてあげた者は2%以下にすぎない。このうち「どこでどんな行事や講座をしているのかわからない」と回答したものは，世代別には高校生，20代，職業別では専業主婦に多い。

以上のような阻害要因を総合すると，活動意欲はあるが，どこでどういう活動がなされているのかわからないために，参加できないでいる者が非常に多いということがわかる。これは1つには情報が不足しているために起こる問題であり，2つには人間関係が稀薄であるため，声をかけてくれたり，誘ってくれる人がいないために起こる問題である。　**（天野栄一）**

Ⅲ　学習活動ニーズの分析と活動方法

地域住民のうちこの1年間地域社会において何らかの学習活動に参加した者は，既述（表4）のように約半数（53.4%）とかなりの参加状況であった。それでは地域住民は今後どのような学習活動を期待しているのか，本項では調査結果をもとに，地域住民の今後の学習活動への参加意欲，希望する学習活動内容と方法，学習活動遂行のため必要な情報と公民館への要望についての意向を見ることにする。

1．学習活動ニーズ

地域住民は多くが学習活動ニーズを持っている（表12)。今後も「ぜひ（続けて）学習や活動をしたい」29.1%，「都合がつけば学習や活動をしたい」43.7%で，7割以上（72.8%）の住民が積極的，消極的のちがいはあるが学習活動に意欲を示している。しかし，過去1年間に学習活動をしたことがあった住民は53.4%にのぼっていたのに比べ「ぜひ（続けて）学習や活動をしたい」と強い継続意志を持つ住民は29.1%であり，住民の学習活動継続意志は必ずしも強いとは言えない。

性別に学習ニーズを見ると，学習活動したい者の割合は，男性73.3%＜女性77.1%と学習活動ニーズを持つ者は男性に比べ女性にやや多く見られる。

年齢階層別では，「ぜひ（続けて)」か「都合がつけば」の積極的か消極的かの意欲の程度はともかく学習活動意欲は中学生70.5%，高校生71.9%，20歳代74.7%，30歳代81.6%，40歳代76.3%，50歳代73.8%，60歳以上75.0%と年齢にかかわりなく多くの住民が学習活動ニーズを持っている。その中でも年齢の若い青少年層に

表10 学習活動ができなかった理由—自分のことや身のまわりのことで—

単位% （ ）内は実数

		忙しくて時間がない	で参加が不安参加した経験がないの	同好の仲間がいない	する人がいない幼児や年寄りの世話を	問題から家族や自分の健康上の	協力が得られない家族や職場からの理解	活動ができるか心配みんなと一緒に学習や	役に立たなかった以前参加したとき余り	その他	NA	計
全体		45.3	15.0	10.1	4.9	4.5	4.0	2.3	2.1	2.8	8.9	(426)
性別	男	48.0	16.2	10.4	0.0	3.5	2.3	2.9	2.3	3.5	11.0	(173)
	女	44.2	14.3	10.0	9.1	4.8	5.2	2.2	1.7	2.6	6.1	(231)
	NA	36.4	13.6	9.1	0.0	9.1	4.5	0.0	4.5	0.0	22.7	(22)
年齢別	中学生	36.7	23.3	13.3	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	6.7	(30)
	高校生	46.9	21.9	3.1	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	12.5	9.4	(32)
	20歳代	43.6	10.3	19.2	5.1	1.3	2.6	1.3	1.3	3.8	11.5	(78)
	30歳代	46.4	11.9	8.3	17.9	0.0	3.6	2.4	1.2	2.4	6.0	(84)
	40歳代	50.0	18.1	4.2	1.4	8.3	8.3	1.4	1.4	0.0	6.9	(72)
	50歳代	45.2	8.1	12.9	0.0	6.5	6.5	3.2	1.6	4.8	11.3	(62)
	60歳以上	45.8	22.9	6.3	2.1	16.7	0.0	2.1	0.0	0.0	4.2	(48)
	NA	40.0	15.0	10.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	25.0	(20)
職業別	農業者	59.5	9.5	9.5	2.4	4.8	2.4	2.4	2.4	2.4	4.8	(42)
	会社員	51.4	14.2	12.8	1.4	1.4	3.4	2.0	1.4	4.1	8.1	(148)
	経営者	58.1	12.9	6.5	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1	(31)
	公務員	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	(6)
	専業主婦	22.8	12.3	5.3	22.8	19.3	5.3	0.0	5.3	0.0	7.0	(57)
	兼業主婦	41.0	10.3	15.4	7.7	2.6	12.8	0.0	0.0	2.6	7.7	(39)
	学生	38.1	23.8	11.1	0.0	0.0	1.6	6.3	3.2	6.3	9.5	(63)
	その他	41.7	25.0	4.2	8.3	0.0	4.2	4.2	4.2	0.0	8.3	(24)
	NA	43.8	12.5	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	18.8	(16)

比べ地域社会の中堅である30歳代・40歳代の成人層に学習活動意欲を持つ者が多いのが注目される。そして「ぜひ（続けて）学習活動をしたい」と積極的に学習活動継続の意志を持つ者は中学生・高校生などの青少年層に多い。

未既婚別に見ると，積極的な学習活動意欲を持つ者は未婚者に多いが，既して未婚者より既婚者に学習活動ニーズを持つ者が多い。

地域住民は，性，年齢，結婚の有無とかかわりなく多くが学習活動ニーズを持っており，その中でもとくに女性，30歳代・40歳代の成人層，既婚者には学習活動ニーズを持っている者が多い。しかし，住民の学習活動継続意志は必ずしも強いわけではない。その原因としては，①学習活動がその時々に企画・実施されたものが多く継続性がなく単発的であること，②学習活動内容がスポーツ，芸術・趣味・けいこごとに偏り，家庭生活・地域生活・職業生活を送る中で生活と結びつき，そして住民の生きがいを高める学習活動内容が不充分であること，③忙しくて時間がないなど自己の生活を取り囲む阻害要因が大きいこと，などがあげられる。

2．希望する学習活動内容

多くの地域住民は，かなりの学習活動ニーズを持っているが，それではどのような内容の学習活動を期待しているのであろうか，職業活動に関すること，家庭生活に関すること，地域社会に関すること，教養・趣味に関すること，スポーツ活動に関することに分けて見ることにする。

(1) 職業活動に関すること

表11 学習活動ができなかった理由—学習活動の内容や施設などのことで—

単位% （ ）内は実数

		どこでどんな活動をしているかわからない	自分の希望にあう講座や行事がない	講座や行事などの日時が適当でない	適当な指導者がいない	お金がかかりすぎる	交通に時間がかかりすぎる	その他	NA	計
全体		36.9	19.0	18.1	2.8	2.8	0.9	5.9	13.6	(426)
性別	男	40.5	22.0	14.5	2.9	1.7	0.0	6.4	12.1	(173)
	女	36.4	16.9	20.8	3.0	3.5	1.3	5.2	13.0	(231)
	NA	13.6	18.2	18.2	0.0	4.5	4.5	9.1	31.8	(22)
年齢別	中学生	40.0	23.3	6.7	16.7	0.0	0.0	3.3	10.0	(30)
	高校生	46.9	21.9	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	(32)
	20歳代	43.6	21.8	11.5	3.8	2.6	0.0	6.4	10.3	(78)
	30歳代	38.1	17.9	17.9	1.2	4.8	0.0	4.8	15.5	(84)
	40歳代	27.8	16.7	31.9	0.0	2.8	1.4	6.9	12.5	(72)
	50歳代	35.5	22.6	22.6	1.6	1.6	1.6	6.5	8.1	(62)
	60歳以上	37.5	14.6	16.7	0.0	0.0	2.1	6.3	22.9	(48)
	NA	20.0	10.0	10.0	10.0	5.0	5.0	5.0	35.0	(20)
職業別	農業者	35.7	14.3	23.8	2.4	0.0	2.4	11.9	9.5	(42)
	会社員	37.8	17.6	22.3	2.7	2.7	0.0	5.4	11.5	(148)
	経営者	35.5	19.4	22.6	3.2	0.0	0.0	6.5	12.9	(31)
	公務員	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	(6)
	専業主婦	47.4	15.8	8.8	0.0	1.8	3.5	1.8	21.1	(57)
	兼業主婦	25.6	23.1	17.9	0.0	7.7	0.0	7.7	17.9	(39)
	学生	42.9	22.2	11.1	6.3	3.2	0.0	4.8	9.5	(63)
	その他	33.3	25.0	20.8	0.0	4.2	0.0	8.3	8.3	(24)
	NA	6.3	18.8	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	31.3	(16)

表12 学習活動ニーズ

	全体 %(人)	性別 男	性別 女	年齢別 中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	結婚 未婚	結婚 既婚
ぜひ学習や活動をしたい	29.1(368)	29.7	30.9	**45.4**	39.7	25.8	22.9	28.4	21.9	25.0	37.2	26.5
	72.8	73.3	77.1	70.5	71.9	74.7	**81.6**	76.3	73.8	75.0	72.1	80.1
都合がつけば学習や活動をしたい	43.7(552)	43.6	46.2	25.1	32.2	48.9	58.7	47.9	51.9	50.0	34.9	53.6
学習や活動をする必要を感じてない	5.3(67)	6.3	4.6	2.2	6.8	5.9	5.0	6.8	5.0	5.0	5.3	4.3
わからない	15.9(201)	16.8	15.2	23.0	19.2	15.6	10.6	14.7	13.7	15.7	19.5	11.9
無回答	5.9(75)	3.6	3.1	4.4	2.1	3.8	2.8	2.1	7.5	4.3	3.1	3.6
計	100(1,263)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

地域住民が希望している職業活動上の知識や技術に関する学習内容は，最も多いのがワープロ・タイプ・速記で約3割（29.7%）が希望し，次が電気・電子・コンピューターの22.5%，経理・簿記・珠算などの商業技術12.8%，医療・看護10.1%となっている（表13）。近年職場環境の変化に伴い急激に職場に導入されてきた技術を多くの住民は身につけたいとしている。

表13 希望する学習・活動内容—職業活動に関すること—

項目	合計 %(実数・人)	性別 男	性別 女	年齢別 中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	結婚 未婚	結婚 既婚
ワープロ・タイプ・速記	29.7(273)	②27.2<	**①33.6**	①21.7	①37.1	①43.2	①43.2	①25.5	②18.6	②17.1	①33.9	①30.6
電気・電子・コンピューター	22.5(207)	**①35.8>**	12.2	①21.7	②25.7	②26.6	②31.5	②20.0	①20.3	③12.4	②25.1	②21.5
経理・簿記・珠算などの商業技術	12.8(118)	8.9<	6.7	5.4	③19.0	③19.4	③13.0	13.8	16.1	3.8	14.0	③13.5
医療・看護	10.1(93)	3.0<	②17.1	8.5	8.6	10.1	8.9	13.8	13.6	7.6	9.4	11.2
自動車の整備・運転	8.9(82)	③17.0>	2.1	10.1	18.1	17.3	7.5	2.8	4.2	2.9	③15.4	4.3
農業・林業	8.6(79)	10.9>	6.0	3.1	0.0	2.2	2.1	③17.2	③17.8	①18.1	2.8	12.2
理容・美容	8.5(78)	1.7<	5.0	③14.7	7.6	10.8	9.6	5.5	9.3	1.9	10.5	7.2
保母・教員の資格取得	7.6(70)	2.7<	③12.6	18.6	18.1	14.4	2.1	0.0	2.5	0.0	③15.4	2.3
土木・建築・機械	6.4(59)	12.3>	0.9	4.7	5.7	7.2	5.5	7.6	11.0	1.9	6.6	6.2
その他	5.5(51)	6.7>	4.5	6.2	9.5	6.5	4.1	4.8	5.1	1.9	6.3	4.6
無回答	30.1(277)	25.9<	31.9	33.3	18.1	13.7	28.1	33.8	28.8	**56.2**	20.8	<34.4

性別に見ると，男性と女性とでは希望する学習活動にちがいがある。男性，女性のそれぞれが希望する内容の上位3項目は，男性①電気・電子・コンピューター（35.8%），②ワープロ・タイプ・速記（27.2%），③自動車の整備・運転（17.0%）であり，女性は①ワープロ・タイプ・速記（33.6%），②医療・看護（17.1%），③保母・教員の資格取得（12.6%）である。男性も女性も従来からそれぞれの性が多く希望していると一般的に言われてきた項目を従来と変わらず多く希望している。無回答の割合は男性25.9%＜女性31.9%で，職業活動に関する学習関心は女性に比べ男性の方が多い。

年齢階層別に見ると，各年齢層が希望する上位3項目は，

中学生①ワープロ・タイプ・速記，電気・電子・コンピューター（各21.7%），③理容・美容（14.7%）

高校生①ワープロ・タイプ・速記（37.1%），②電気・電子・コンピューター（25.7%），③経理・簿記・珠算などの商業技術（19.0%）

20歳代①ワープロ・タイプ・速記（43.2%），②電気・電子・コンピューター（26.6%），③経理・簿記・珠算などの商業技術（19.4%）

30歳代①ワープロ・タイプ・速記（43.2%），②電気・電子・コンピューター（31.5%），③経理・簿記・珠算などの商業技術（13.0%）

40歳代①ワープロ・タイプ・速記（25.5%），②電気・電子・コンピューター（20.0%），③農業・林業（17.2%）

50歳代①電気・電子・コンピューター（20.3%），②ワープロ・タイプ・速記(18.6%)，③農業・林業（17.8%）

60歳以上①農業・林業（18.1%），②ワープロ・タイプ・速記（17.1%），③電気・電子・コンピューター（12.4%）

である。各年齢層ともワープロ・タイプ・速記や電気・電子・コンピューターの知識・技術を学習したいという希望者が多い。特に20歳代，30歳代では4割以上（43.2%）が希望している。20歳代，30歳代は職場や地域社会において若手から中堅に当たる年齢層で職場，社会のME化を身近に感じ，それだけ学習の必要性を痛感している現れとも見ることができる。また40歳代，50歳代，60歳以上の比較的高年齢層には農業・林業に関する知識・技術の学習を希望している者の割合が多い。無回答を職業活動に関することの学習を希望していない者または関心のない者と捉えると，60歳以上の6割近く（56.2%）は職業活動に関する学習には希望または関心がなく，20歳代，高校生は職業活動に関しての学習を希望している者が多い。

未既婚別では，既婚者に比較して未婚者の方が職業活動に関する学習を多く希望している

表14 希望する学習・活動内容—家庭生活に関すること—

	全体 %(人)	性別		年齢別							結婚	
		男	女	中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	未婚	既婚
洋裁・和裁・着付・編物・手芸	28.4(261)	2.5<	**52.2**	②20.2	②36.2	①34.5	①34.9	①31.7	②26.3	②15.2	28.5<	30.6
調理・栄養・食品	26.8(247)	12.6<	**40.9**	①24.0	①41.9	②33.1	②28.8	②26.9	③22.9	③13.3	30.8>	26.1
健康・保健衛生	21.2(195)	24.7>	18.4	③18.6	③11.4	17.3	22.6	③22.8	①29.7	①24.8	18.2<	23.4
家庭教育・青少年健全育成	14.6(134)	18.3>	10.3	9.3	5.7	③13.7	③23.3	19.3	15.3	8.6	11.1<	17.2
消費生活・生活改善	12.0(110)	16.3>	8.4	8.5	4.8	19.4	10.3	13.8	16.9	8.6	11.4	12.6
出産・育児	3.6(33)	1.2<	6.0	4.7	5.7	8.6	6.2	0.0	0.0	0.0	4.0	3.9
その他	0.9(8)	1.2	0.4	2.3	1.0	0.0	0.0	0.7	0.8	1.0	0.9	0.6
無回答	36.7(338)	**54.3**>	20.8	**50.4**	**43.8**	30.2	25.3	30.3	28.8	**53.3**	**41.9**>	31.5

(無回答の割合,未婚者20.8%<既婚者34.4%)。

職業活動に関する学習は職業生活の第一線から退く年齢である60歳以上の高齢者には希望者は少ないが，これから職業生活に入ろうとする高校生や職業生活に入ったばかりの20歳代に希望者が多い。性，年齢，結婚の有無にかかわりなく，ワープロ・タイプ・速記や電気・電子・コンピューターに関する学習を多くの地域住民は希望している。そして，地域住民は自分の職業生活とかかわりの深い内容の学習を多くが希望している。

(2) 家庭生活に関すること

地域住民が，家庭生活に関することで，これから学習したいと希望している内容は，表14の通りである。無回答が36.7%で，地域住民の4割近くは家庭生活に関することの学習を望んでいないかもしくは関心を持っていない。家庭生活に関することの学習意欲がそれ程高くない中で，比較的に多くの住民が希望している学習内容は，最も多いのが洋裁・和裁・着付・編物・手芸（28.4%）であり，次いで調理・栄養・食品（26.8%），健康・保健衛生（21.2%）である。衣・食・健康が住民の希望学習内容だと言うことができる。

性別に見ると，男性と女性では関心を持つ割合，希望する学習内容が大きく異なっている。男性の半分以上（54.3%）は無回答であり，家庭生活に関して関心のなさが現われている。女性は関心が高く，服飾や食関係のような日常の身近な生活と深くかかわっている学習内容に希望が集中している。

年齢階層別で見ると，各年齢層が希望する上位3項目は，

中学生①調理・栄養・食品（24.0%），②洋裁・和裁・着付・編物・手芸（20.2%），③健康・保健衛生（18.6%）

高校生①調理・栄養・食品（41.9%），②洋裁・和裁・着付・編物・手芸（36.2%），③健康・保健衛生（11.4%）

20歳代①洋裁・和裁・着付・編物・手芸（34.5%），②調理・栄養・食品（33.1%），③家庭教育・青少年健全育成（13.7%）

30歳代①洋裁・和裁・着付・編物・手芸（34.9%），②調理・栄養・食品（28.8%），③家庭教育・青少年健全育成（23.3%）

40歳代①洋裁・和裁・着付・編物・手芸（31.7%），②調理・栄養・食品（26.9%），③健康・保健衛生（22.8%）

50歳代①健康・保健衛生（29.7%），②洋裁・和裁・着付・編物・手芸（26.3%），③調理・栄養・食品（22.9%）

60歳以上①健康・保健衛生（24.8%），②洋裁・和裁・着付・編物・手芸（15.2%），③調理・栄養・食品（13.3%）

である。洋裁・和裁・着付・編物・手芸の服飾関係と調理・栄養・食品の食関係は各年齢層とも多くが希望学習内容にあげている。そして，高年齢層には健康についての学習希望が多く，

表15 希望する学習・活動の内容—地域社会に関すること—

	全体 %(人)	性別		年齢別							結婚	
		男	女	中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	未婚	既婚
地域の人々のふれあいや連帯の活動	30.8(283)	①26.2<	①35.8	③19.4	③22.9	①34.5	②34.2	**①42.8**	②32.2	①23.8	②25.9<	①36.0
生活環境の問題	25.3(233)	②23.7<	②27.8	②26.4	②23.8	②25.9	①35.6	②21.4	①33.1	③13.3	①26.8	②25.9
障害者などへの奉仕活動	19.6(180)	10.4<	②27.8	①33.3	①31.4	18.0	11.0	17.9	10.2	②15.2	③25.6>	③15.5
地域の教育問題や文化活動	13.8(127)	11.4<	16.5	10.9	15.2	③20.1	③12.3	③20.7	10.2	3.8	13.7	14.7
地域の産業や開発の活動	11.5(106)	③18.5>	5.6	5.4	16.2	18.0	11.6	6.2	③16.9	6.7	14.2	10.8
その他	1.0(9)	1.2	0.6	0.8	1.9	1.4	1.4	0.7	0.0	1.0	1.4	0.8
無回答	38.6(355)	**44.0**	33.0	41.1	39.0	33.1	39.0	30.3	33.9	**59.0**	38.5	36.9

子育ての最中である20歳代，30歳代の住民には家庭教育・青少年健全育成といった教育についての学習希望が多い。

未既婚別に見ると，既婚者に比べ未婚者には無回答が多く，家庭生活に関する未婚者の関心のなさが窺える。既婚者に比べ未婚者に希望が多いのは調理・栄養・食品についての学習であり，既婚者に希望が多いのは服飾・健康・教育である。

地域住民が家庭生活に関して希望する学習内容は，服飾・食・健康であり，育児についての学習を希望する者は少ない。性，年齢，結婚の有無によって学習希望内容にちがいが見られるが，望んでいる学習活動内容はそれぞれ自分の生活に身近な事柄についてである。そして，男性，中高校生，60歳以上の高齢者，未婚者は家庭生活に関する学習活動への関心が低い。

(3) 地域社会に関すること

住民が地域社会に関することで今後学習活動を希望している内容（表15）は，無回答が最も多く38.6%と約4割であり，住民の地域社会，地域問題に関する意識が現われている。地域社会のこと，地域問題に関して住民の関心が低いなかで，比較的多くの住民が希望している学習活動は，地域の人々のふれあいや連帯の活動（30.8%），生活環境の問題（25.3%）であり，地域の産業や開発の活動（11.5%）や地域の教育問題や文化活動（13.8%）を望む住民は少ない。地域住民が人々のふれあいや連帯，生活環境を重視している様子を見て取ることができる。

性別に見ると，無回答の割合は男性44.0%＞女性33.0%で地域社会に関することの男性の意欲の低さが目立つ。女性に比べ男性は地域社会をまだ身近なものとして捉えていない現われとも言える。

男性に比べ女性がより多く望んでいる学習活動は地域の人々のふれあいや連帯の活動（女性35.8%＞男性26.2%），生活環境の問題（女性27.8%＞男性23.7%），障害者などへの奉仕活動（女性27.8%＞男性10.4%），地域の教育問題や文化活動（女性16.5%＞男性11.4%）であり，逆に女性より男性がより多く望んでいる学習内容は地域の産業や開発の活動（男性18.5%＞女性5.6%）である。男性は地域社会全体のことについての学習活動を希望し，女性は地域社会で生活する人々と直接かかわりのある活動を希望している。

年齢階層別に望んだ上位3項目を見ると，

中学生①障害者などへの奉仕活動（33.3%），②生活環境の問題（26.4%），③地域の人々のふれあいや連帯の活動（19.4%）

高校生①障害者などへの奉仕活動（31.4%），②生活環境の問題（23.8%），③地域の人々のふれあいや連帯の活動（22.9%）

20歳代①地域の人々のふれあいや連帯の活動（34.5%），②生活環境の問題（25.9%），③地域の教育問題や文化活動（20.1%）

30歳代①生活環境の問題（35.6%），②地域の人々のふれあいや連帯の活動（34.2%），③地域の教育問題や文化活動（12.3%）

表16 希望する学習・活動内容—教養・趣味に関すること—

	全体 %(人)	性別		年齢別							結婚	
		男	女	中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	未婚	既婚
音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真	30.3(279)	①26.2	①36.0	①35.7	①40.0	①38.8	①33.6	①25.5	16.9	①25.7	①37.0	①28.0
外国語(英会話など)	17.7(163)	15.6	③21.4	②24.0	②35.2	②27.3	②21.2	10.3	6.8	0.0	②27.1	13.3
政治・経済・法律・時事問題・国際問題	14.1(130)	②21.2	7.9	4.7	8.6	③18.0	③17.8	13.8	③18.6	18.1	11.1	②17.0
歴史(郷土史・史蹟)	13.8(127)	③20.0	7.9	③17.8	5.7	8.6	11.6	13.8	①19.5	③19.0	12.3	14.9
茶道・華道	12.7(117)	1.5	②23.3	9.3	③18.1	17.3	15.8	11.0	12.7	3.8	③14.2	13.0
国語(話し方・手紙の書き方等)	12.5(115)	6.9	16.9	6.2	5.7	10.8	15.1	②24.8	14.4	6.7	7.4	③16.6
文学(俳句・短歌・詩・小説・古典など)	12.4(114)	9.4	15.2	14.0	9.5	8.6	8.2	③19.3	13.6	13.3	11.4	13.3
園芸・盆栽	10.1(93)	12.8	7.5	1.6	0.0	5.0	6.8	15.9	①19.5	②22.9	2.0	15.3
舞踊・演劇・民俗芸能	4.8(44)	1.5	7.3	1.6	5.7	5.8	1.4	4.1	8.5	7.6	4.0	4.3
自然科学	3.6(33)	6.9	1.1	5.4	4.8	4.3	6.8	0.0	1.7	2.9	5.7	2.5
囲碁・将棋	3.6(33)	7.2	0.2	5.4	0.0	2.9	4.8	1.4	5.1	3.8	2.8	3.7
その他	1.4(13)	1.5	1.5	1.6	4.8	2.2	1.4	0.7	0.0	0.0	3.1	0.4
無回答	20.7(190)	23.2	16.9	28.7	21.0	18.7	15.8	18.6	18.6	21.0	22.2	17.2

40歳代①地域の人々のふれあいや連帯の活動（42.8%），②生活環境の問題（21.4%），③地域の教育問題や文化活動（20.7%）

50歳代①生活環境の問題（33.1%），②地域の人々のふれあいや連帯の活動（32.2%），③地域の産業や開発の活動（16.9%）

60歳以上①地域の人々のふれあいや連帯の活動（23.8%），②障害者などへの奉仕活動（15.2%），③生活環境の問題（13.3%）

である。中高校生にボランティア活動の希望が多いのが目をひく。

未既婚別に見ると，既婚者より未婚者がより多く望んでいる学習活動は障害者などへの奉仕活動（未婚者25.6%＞既婚者15.5%）であり，既婚者が多く望んでいるのは地域の人々のふれあいや連帯の活動（未婚者25.9%＜既婚者36.0%）である。

地域住民の地域社会に関する活動への関心は全般的に低いが特に男性，高齢者は低い。その中で地域住民の多くが希望している学習活動は，人々とのふれあいや連帯をもとめる活動と生活環境問題についての活動である。性，年齢，結婚の有無を問わず，多くの住民が活動を希望している。女性，中高校生，未婚者にはボランティア活動を希望している者が多く見うけられる。

(4) 教養・趣味に関すること

地域住民が教養・趣味に関することで希望している学習活動内容（表16）は，音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真の創作活動を希望している者が最も多く3割（30.3%）を占めている。次いで，外国語の学習（17.7%），政治・経済・法律・時事問題・国際問題など社会的な事柄の学習（14.1%），歴史（13.8%），茶道・華道（12.7%），話し方・手紙の書き方等の学習（12.5%），文学（12.4%），園芸・盆栽（10.1%）となっている。住民は趣味に関する活動をより多く希望しているが，教養に関する学習もかなりの割合で希望している。

性別に希望する学習活動内容を見ると，男性と女性とではかなりの違いがある。男性，女性それぞれが希望している上位3項目は，

男性①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（26.2%），②政治・経済・法律・時事問題・国際問題（21.2%），③歴史（20.0%）

女性①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（36.0%），②茶道・華道（23.3%），③英会話などの外国語（21.4%）

であり，どちらかと言うと男性は教養に関すること，女性は趣味に関することを希望している。教養に関することでも男性は社会・歴史を希望

し，女性は文学・語学を希望している。

年齢階層別に希望学習活動内容を見ると，各年齢層が希望した上位3項目は，

中学生①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（35.7%），②英会話など外国語（24.0%），③歴史（17.8%）

高校生①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（40.0%），②英会話など外国語（35.2%），③茶道・華道（18.1%）

20歳代①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（38.8%），②英会話など外国語（27.3%），③政治・経済・法律・時事問題・国際問題（18.0%）

30歳代①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（33.6%），②英会話など外国語（21.2%），③政治・経済・法律・時事問題・国際問題（17.8%）

40歳代①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（25.5%），②話し方・手紙の書き方等の国語（24.8%），③文学（19.3%）

50歳代①歴史（19.5%），①園芸・盆栽（19.5%），③政治・経済・法律・時事問題・国際問題（18.6%）

60歳以上①音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（25.7%），②園芸・盆栽（22.9%），③歴史（19.0%）

である。各年齢層とも音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真の創作活動に希望者が多いが，その他は，中学生，高校生，20歳代，30歳代と比較的年齢の若い層に英会話などの外国語の学習，40歳代，50歳代，60歳以上の比較的高齢層に郷土史・史蹟などの歴史や園芸・盆栽の希望者が多い。

未既婚別に見ると，未既婚を問わず芸術の創作活動を希望する者が最も多いが，その他は未婚者と既婚者とでは希望する学習活動内容にかなりのちがいが見られる。既婚者に比べ未婚者が多く希望するのは，音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真（未婚37.0%＞既婚28.0%），英会話などの外国語（未婚27.1%＞既婚13.3%）であり，反対に既婚者が多く希望する内容は話し方・手紙の書き方等の国語（未婚7.4%＜既婚16.6%），園芸・盆栽（未婚2.0%＜既婚15.3%）である。

教養や趣味に関して地域住民が希望している学習活動内容は，性，年齢，結婚の有無にかかわりなく，音楽・絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真など芸術に関する創作活動が多い。その他は女性，若年層，未婚者には英会話などの外国語を希望する者が多く，男性，高齢層には社会や歴史に関する学習希望者が多い。

(5) スポーツ活動に関すること

地域住民が希望するスポーツ活動（表17）は，ソフト・バレー・テニス・ゴルフ・ゲートボールなどの球技が最も多く半数以上（55.0%）が望んでいる。次いで陸上・水泳・ジョギング・サイクリングなどの個人スポーツ（28.9%），釣り・登山・キャンプ・オリエンテーリングな

表17 希望する学習・活動の内容—スポーツ活動に関すること—

項目	全体 %(人)	性別		年齢別							結婚	
		男	女	中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	未婚	既婚
ソフト・バレー・テニス・ゴルフ・ゲートボールなどのスポーツ	55.0(506)	①57.5	①55.9	**①69.8**	**①64.8**	**①69.1**＞	①61.6＞	①55.2＞	①39.8＞	①23.8	①66.7＞	①51.3
陸上・水泳・ジョギング・サイクリングなどの個人スポーツ	28.9(266)	③25.2＜	②32.3	②31.0	②36.2	③30.2	②32.9	③26.2	③29.7	②15.2	②31.1	②28.0
釣り・登山・キャンプ・オリエンテーリングなどの野外活動	25.2(232)	②28.4＞	③23.3	③28.7	16.2	②30.9	③26.7	②27.6	②30.5	③12.4	③26.2	③25.7
剣道・柔道・合気道など	8.0(74)	9.4	7.5	**17.8**	**③20.0**	5.8	8.9	2.8	1.7	1.0	**14.0**	3.9
その他	4.1(38)	4.7	3.6	1.6	7.6	8.6	4.8	2.8	0.8	1.9	5.7	3.3
無回答	24.2(223)	20.7	25.5	10.9 ＜	14.3 ＜	16.5 ＞	15.8 ＜	24.1 ＜	33.1 ＜	**60.0**	14.8 ＜	28.0

どの野外活動（25.2%）を希望している。球技や個人スポーツ，野外活動の人気は高いが，武道の人気は低い。

性別に希望するスポーツ活動を見ると，個人スポーツは男性よりも女性に多く望まれ（男性25.2%＜女性32.3%），野外活動は男性がより多く（男性28.4%＞女性23.3%）望んでいる。

年齢階層別に見ると，スポーツ活動は若年層ほど関心が高く，高年齢になるに従って関心が低くなっており，60歳以上では6割が関心を示していない。年齢層に関わりなく最も多く希望しているのが球技で，特に年齢が若くなるに従い希望者が多くなる傾向にある。武道は中高校生の間に希望が多い。

未既婚別に見ると，未婚，既婚での希望のちがいはそれほど見られないが，既婚者に無関心が多く，未婚者には球技や武道の希望が多い。

地域住民のスポーツ活動に関する希望は，性，年齢，結婚による違いはほとんどなく，球技に集中している。そのなかで，武道の希望は中高校生と未婚者に偏っている。

地域住民が今後希望する学習活動内容は，職業生活に関すること，家庭生活に関すること，地域社会に関すること，教養・趣味に関すること，スポーツ活動に関することそれぞれについて地域住民の関心の置き処にかなりの相違がみられる。無回答の比率を関心の度合いと仮定すると，無回答の多い，つまり希望する学習活動内容として関心の低い順は，地域社会に関すること(38.6%)＞家庭生活に関すること(36.7%)＞職業生活に関すること（30.1%）＞スポーツ活動に関すること（24.2%）＞教養・趣味に関すること（20.7%）となっている。教養・趣味，スポーツ活動には関心が高く，地域社会，家庭生活に関することには関心が低い。学習活動への参加内容で見られたのと同様のことが希望活動においても見られる。地域住民の希望活動内容は気楽に個人の興味のみで参加できる教養・趣味・スポーツのどちらかというと内容的にソフトな学習活動部門に関心が流れ，地域住民が日常生活を送るなかで直面する問題や自己の人生設計・生きがいにかかわる事柄の学習，いわばハードな内容の学習活動部門への関心は低い。

また，性，年齢，結婚の有無によって希望する学習活動内容がかなりまちまちである。

3．希望する学習活動方法

地域住民が前述のような学習活動をどのような方法で行いたいとしているであろうか。表18は，住民が希望する学習活動方法である。住民が最も多く希望しているのは，同好の人のサークルやグループ活動による方法で約4割（43.9%）が希望している。次が県・市町村役場・公民館などの講座・行事（38.0%），自宅（17.6%）となっている。サークルやグループ活動，公共団体主催の講座・行事を希望する住民が多い。

性別に希望する学習活動方法を見ると，性によるちがいはあまりない。女性に比べ男性が多く希望する方法は職場・農協・商工会などの研修（男性16.0%＞女性7.7%）で，男性に比べ女性に希望が多いのは婦人会・老人会・PTAなどの団体活動（男性3.5%＜女性15.4%）である。

年齢階層別に見ると，各年齢層とも同好の人たちが集まったサークルやグループ活動，公共団体主催の講座・行事を希望する者の割合が多い。その中で同好の人の集まりであるサークルやグループ活動を希望するのはより若年齢層に多く，公共団体主催の講座・行事は高年齢層がより多く希望している。また同じく高年齢層に希望者が多いのは婦人会・老人会・PTAなどの団体活動である。自宅での学習を希望しているのは若年層に多い。若年層が多く希望しているのはサークルやグループ活動のように気楽に気持ちの負担がかからなく学習活動ができる方法であり，高年齢層は公的機関が用意し参加を募る場での学習活動を望んでいる傾向がある。

未既婚別に見ると，既婚者に比べ未婚者が多く希望するのは自宅での学習（未婚24.8%＞既婚12.6%），高校・大学などの団体活動による学習（未婚19.1%＞既婚2.1%），訓練所・専修

表18 希望する学習活動方法

	全体 %(人)	性別		年齢別							結婚	
		男	女	中学生	高校生	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	未婚	既婚
同好の人のサークルやグループ活動	43.9(404)	46.4	44.3	②27.9	①47.6	①54.7>	②49.3>	②46.9>	②43.2>	②41.0	43.6	46.4
県・市町村役場・公民館などの講座，行事で	38.0(350)	38.8	37.9	②18.6	18.1	②27.3	①50.0	①51.7	①51.7	①41.9	21.9<	51.1
自宅で	17.6(162)	19.3	16.1	①35.7>	③20.0>	15.8	③15.8>	11.7>	9.3	③15.2	24.8>	12.6
職場・農協・商工会などの研修で	11.7(108)	16.0>	7.7	0.8	0.0	18.7	10.3	③17.2	③21.2	11.4	7.1<	15.3
民間で行う講座，行事で	11.2(103)	11.1	12.0	10.1	8.6	③20.1	11.0	9.0	12.7	6.7	11.7	10.6
本やテレビ・ラジオなどを利用して一人で	11.1(102)	12.6	10.1	10.9	5.7	18.0	7.5	13.1	9.3	13.3	13.4	10.1
婦人会・老人会・PTAなどの団体活動で	9.9(91)	3.5<	15.4	5.4	0.0<	2.9<	13.0 <	15.2 <	16.1 <	17.1	2.6<	14.3
高校・大学などの団体活動で	8.7(80)	8.6	9.2	13.2	②45.7	2.2	4.1	2.8	0.8	0.0	19.1>	2.1
訓練所・専修学校・各種学校に入って	6.5(60)	4.4	8.6	16.3	③20.0	5.0	4.1	1.4	1.7	0.0	12.3>	2.3
個人的に先生について	5.9(54)	2.5	8.6	8.5	7.6	7.9	8.2	2.8	2.5	3.8	7.7	4.8
通信教育で	3.9(36)	4.2	3.9	2.3	3.8	6.5	7.5	2.1	1.7	3.8	4.8	3.3
その他	3.3(30)	3.5	3.2	14.7	2.9	2.9	0.7	0.0	0.8	1.0	7.1	0.6
無回答	5.9(54)	5.4	4.3	8.5	2.9	3.6	0.7	5.5	5.1	12.4	4.8	5.0

学校・各種学校に入っての学習（未婚12.3%＞既婚2.3%）であり，既婚者が多く希望するのは県・市町村役場・公民館などの講座・行事（未婚21.9%＜既婚51.1%），職場・農協・商工会などの研修（未婚7.1%＜既婚15.3%），婦人会・老人会・PTAなどの団体活動（未婚2.6%＜既婚14.3%）である。未婚者は自宅で学習するか或いは外で学習するのだったら教育機関である学校での学習を希望し，既婚者は生活に身近な団体での学習を望んでいる。

地域住民が希望する学習活動方法は同好の人が集まったサークルやグループでの学習活動と公共団体が主催する講座や行事に参加して学習活動することである。そうだとすると，同好の人たちが何処にいるか，どんなサークルやグループが何処でどんな学習や活動をしているかの情報が必要である。地域住民相互が日常のつきあいの中からパーソナルなコミュニケーションによってそのような情報がもたらされることもあるが，どこかで地域住民に学習や活動の情報をきちんと伝達する仕組みがいる。そして，情報の入手により学習活動をはじめる住民もでてくる筈である。情報の入手は地域住民の学習活動への参加の「きっかけづくり」でもある。

表19 学習活動を進めるために必要な情報

単位%

いつ，どこで，何をやっているかを知りたい	62.0
申し込み方法や費用，条件などを知りたい	36.5
どんな人が教えてくれる(講師・指導者など)のかを知りたい	28.1
いろいろな資格の取り方を知りたい	24.5
学習や活動のグループや団体について知りたい	23.8
学習や活動の仕方を知りたい	22.1
講師や指導者を頼む方法や経費などを知りたい	9.2
その他	1.2
特に知りたいと思っていることはない	17.4

4．学習活動を進めるために必要な情報

地域住民が今後学習活動を進めていくために必要としている情報（表19）は，「いつ，どこで，何をやっているかを知りたい」が圧倒的に多く6割を超え（62.0%）ている。次いで「申し込み方法や費用，条件などを知りたい」（36.5%），「どんな人が講師・指導者か知りたい」（28.1%）となっている。地域住民が最も求めている情報は現在実施されている活動への参加

表20　公民館への要望　単位%

学習や活動の機会や方法などをもっと知らせてほしい	31.4
夜間や休日に学習や活動を開いてほしい	31.4
講座や行事などを身近なところで開いてほしい	28.7
学習や活動の種類や内容をふやしてほしい	25.0
どんな学習や活動をしたいか，もっと住民に要望を聞いてほしい	23.2
学習や活動の団体やグループの育成をしてほしい	17.7
学習や活動の指導・助言者・講師・専門家を充実してほしい	14.4
程度の高い学習や活動をふやしてほしい	7.5
特になし	18.4

の仕方や運営の情報よりも学習活動への参加のきっかけになる情報である。地域住民が求めている情報として，圧倒的に多くが「いつ，どこで，何をやっているのか知りたい」をあげているということは，地域での学習活動への参加のきっかけともなる最も基本的な情報が不足しているということである。

5．行政社会教育機関に対する期待

行政社会教育機関の代表的な市民学習施設として公民館がある。前述のように地域住民の希望する学習活動方法として，多くの住民は，県や市町村役場とともに公民館が主催する講座や行事で学習活動をすることを望んでいる。その公民館に対して地域住民が持っている学習活動内容・方法についての要望（表20）は，最も多いのが「学習や活動の機会や方法などをもっと知らせてほしい」(31.4%)，「夜間や休日に学習や活動を開いてほしい」(31.4%) で，次いで「講座や行事などを身近なところで開いてほしい」(28.7%)，「学習や活動の種類や内容をふやしてほしい」(25.0%)，「どんな学習や活動をしたいか，もっと住民に要望を聞いてほしい」(23.2%) が続いている。公民館の情報提供機能の充実や住民の学習活動参加へのきっかけにつながる事業実施の要望が多い。住民の学習活動参加を阻害している要因として最も大きかったのが「どこでどんな活動をしているか判らない」という情報不足であり，今後学習活動を行っていくために必要な情報として圧倒的多数の住民があげていたのは「いつ，どこで，何をやっているのか知りたい」であった。地域住民の学習センターとしての公民館は，学習活動プログラムの質的充実を図るとともに，地域社会における多様な団体・サークル活動の動向と，それぞれの活動の正確な情報を知るためのネットワーキングを生涯学習システムのなかに構築し，それを住民に積極的に提供していくことが期待される。　**（金子養正）**

Ⅳ　学習プログラム編成をめぐる今後の課題

本論では，ある地域の住民に対する調査結果をもとに，地域住民の学習活動の実態と動向，地域住民の学習活動ニーズとその活動内容・方法を見てきたが，生涯学習活動の推進と人びとの生きがい学習の構築についていくつかの知見を得ることができた。

①地域住民はかなり学習活動に参加しており，多くが学習関心や活動ニーズを持っている。しかし，その活動や学習関心，活動ニーズは趣味，娯楽，体育，スポーツ，レクリエーションなどソフトな部門の学習活動内容に偏っており，それらは言わば“集められる型”の学習活動である。地域住民が積極的に地域課題に取り組み，生活改善活動や明るい家庭づくり，青少年の健全育成など公共的関心を強めそして個人の生きがいを高めるハードな部門への参加，関心，ニーズは少なく低い。ソフト，ハードそれぞれの学習活動部門のバランスを保つのが望ましい。そのためにはソフト部門に偏っている学習活動プログラムをハード部門にウェイトを置く，思い切った転換を図っていくべきである。

②地域住民の学習関心，活動ニーズは性，年齢，結婚，職業の階層によって差異が見られる。特にハード部門において差異が顕著である。従来どちらかというと，学習活動プログラムは対象を単一階層に置いて設けられていた傾向があったが，それを見直し，活動内容によって対象範囲を拡げることが，ハード部門プログラムの接近方法として重要である。全住民を対象とするもの，「青少年と高齢者」や「婦人と高齢者」

というように2つ以上の関連階層を対象とするもの，単一階層を対象にした方が効果的なもの，というように学習のねらいによって区分別に考えて学習活動プログラムを編成する必要がある。それによって“集められる型”の学習活動から地域住民が生活の必要課題に対して，自発的に“集まってくる型”の学習活動への転換が図られる可能性がある。

③地域住民の学習活動を阻害している大きな要因は「忙しくて時間がない」という個人的な事情とともに「どこでどんな活動をしているかわからない」の情報不足であり，今後学習活動を進めていくうえで地域住民が最も望んでいるのは「いつ，どこで，何をやっているのか」の情報である。地域住民はその情報を公民館に求めており，住民の公民館活動への期待は大きい。

勿論，地域住民が学習活動を積極的に活発に進めるには，行政機関に安易に頼ることなく，学習主体者は住民であるという自覚のもとに，住民主体の学習活動を自発的に強めていくことが肝要であることは言をまたない。**(渡辺博史)**

〔本論は，第41回日本教育社会学会大会（平成元年10月，於創価大学）で発表した内容に加筆したものである。〕